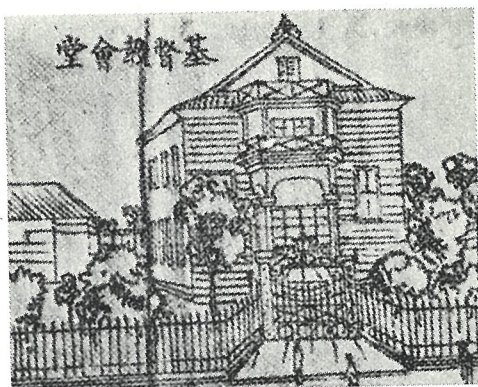




弓之町の教会堂

文明開化の町

明治初年に、岡山市は池田藩の城下町としては中、四国随一の文化都市だった。当時の記録によれば神戸は漁村であり、広島は名もなき田舎町だった。山陽鉄道株式会社が明治二十四年三月に岡山まで開通し終着駅岡山の繁栄がうかがえる。こんな文化都市を同志社やアメリカン・ボードが見通す訳がない。属の要のごとき岡山市を教化することは中、四国をキリスト教化することだと視はれて明治八年からその関係が生れた。

その年の四月、新島先生を助けて教師となつたティラー博士が、当時、神戸の居留地にいたので、岡山の中川横太郎氏が招いて基督教講演会を開催したのが最初で、十年三月にはこの宣教師は同志社神学生金森通倫を伴つて来岡し、県下に基督教の伝道を開始し、引続き二階堂円造、小崎弘道も新島先生とともに来て伝道につとめた。世をあげての欧化時代であるうえに、当時の県令高崎五六が進歩的な県政を施したので基督教の伝道の門戸が開かれ、同志社より派遣された森田久万人、吉田作弥らが宣教の業にいそしんだ。京都か

ら岡山まで鉄道もバスもないのに陸路または海路はるばる岡山目指してご苦労の多い旅をされたものでした。

アメリカの三家族

明治十二年（一八七九年）には後日同志社の教師になったベレー、ペター、ケリーの三家族が来岡した、住居を東山に建て、本県最初の洋式建物として新しい時代の生活の見本を示した。いわく、ベット、ランプ、洋服、オルガン等々。これに同志社の学生や卒業生が協働しました。当時の面白いエピソードの数々がベレー伝記 (Pioneer Doctor in Old Japan) に記述してあります。岡山の文化史にも明治初期のこれら宣教師と同志社人の功労はとくに明記されています。いまの岡山大学医学部が当時、県立医学校として創設される際ベレーの貢献は大したものでした。岡山で六年伝道して同志社に移り、同志社医学校を開設しなかった彼は不幸にして志を遂げることをえず僅に同志社看護婦学校を創立したり、濃美大震災には同志社医療救援隊を組織して日本におけ災害救援の先駆者としての模範を示した。現在の同志社アーモスト館長オ

ーチス・ケリーの祖父オーチス・ケリーは長らく同志社において教鞭をとり、その息子、娘も日本基督教のために尽力した名門であるが、ペテロ家もまた岡山教会や岡山孤児院の大きな柱として忘れてはならない人達である。この三家族および初期同志社神学生達の蒔いた福音の種子が県下に二十四の組合教会を育てたし、キリスト教主義の女子教育のために梅花女学校、神戸女学院と並び称されていた高梁順正女学校（現県立高梁高校）山陽英和女学校（現山陽学園）微陽学校らを誕生させた。本県が全国で女子教育の盛んな県となった基礎には彼らの功績を見逃せない。社会事業の分野でも組合教会の中より近世日本社会事業史を飾った四人がいる。岡山孤児院の石井十次は明治三九年彼の四二才のとき一二〇〇人の孤児を養護していたし、日本救世軍の創立者山室軍平が特殊な社会事業をしたり、家庭学校設立者留岡幸助が教護事業の開拓者であったり、本邦最古の隣保事業を開設したアダムス（明治二十四年）のごときも皆同志社に教育されたり、感化影響されたり、同志社人の助力を得て事業をやたことは確認されている。

福音のひろがり

新島先生の生れた安中藩の藩祖は備中松山藩祖の弟に当るので高梁町（松山藩）には親近感があつたのか、この山奥の不便な町にわざわざ何度も伝道し、その状況を八重子夫人に書き送っていることは岩波文庫に記録されている通りである。江戸から二十才の先生（文久二年）が松山藩の持船快風丸という西洋型汽帆船で松山藩（高梁町）の領地岡山県玉島港に航海実習され、やがてその船で函館に赴き海外に脱出される縁となった。

岡山教会小史によると『教会設立の日、即ち明治十三年十月十三日（水）は晴天であつて教会組織に関する会議のため昨十二日より参集していた各教会の代員は神戸教会の松山高台、多聞教会の二階堂円造、兵庫教会の村上俊吉、京都第一、二、三教会の新島襄、大阪教会の上代知新、浪花および天満教会の沢山保羅、今治教会の伊勢（横井）時雄、明石教会の隆屋の諸氏で、宣教師として来会したものは神戸のアッキンソン氏、当地に來任して間もないタルカッタ女史並にベリー、ケリー、ペテロの三博士夫妻であつた。本教会設

立式は午前九時三十分を始められ同志社校長新島襄博士の司式によつて洗礼式が執行され、二十七名の受洗入会者、六名の他教会よりの転入会者があり、歓喜に満ちた莊重な祈禱が捧げられた。ついで沢山保羅牧師および新島博士の司式並に祈禱裡に金森通倫氏の按手礼が執行された。かくて茲に岡山基督教会は會員三十三名を以つて誕生し、明石以西、四国、九州より北は遠く新潟に至る迄今治以外に教会の存在していない当時の広い地域にあつて、キリストの福音をもたらす世の光として輝き出たのである。これこそ宣教師諸氏の宣教の力と新島襄博士の設立にかかる基督教主義の教育の同志社を出た青年伝道者との二つの力の共同作業の果実であると言うことが出来、まことに永遠に働き給う活けるキリストである聖霊のみ業の成し給うた結果である』とある。

それから同志社人は天城教会（明治十三年）高梁（十五年）笠岡（十七年）落合（十九年）津山（二十三年）旭東（三十六年）久世（三十八年）高屋（三十九年）倉敷（三十九年）玉島（四十一年）勝山（大正七年）井原（九年）と教会を設立し、戦前には二十四の組合

教会が県下にあり、この教会を通して多数の信徒の子女が母校同志社に入学していた。筆者のごときも同志社入学をすすめられたときは教授も学生も禁酒禁煙でチャペルからは一日中讃美歌が聞こえるし、大多数がクリスチャンだと紹介されたものだが入学して見て全然としたことでした。

明治四年岡山県権令（知事）新庄厚信は西穀一を起用して学務を担任させた。穀一は本領の儒学を廃棄すると声明し、専ら当時の欧米の新知識に傾倒した。そのためにほかに先んじて多数の宣教師が歓迎され、キリスト教会が各地に創立され、県民の進取的、建設的、文化的な性格が向上され、教育県と称されたり、多数の社会運動家を続出させたり、文化都市岡山や倉敷を形成したり、キリスト教の本県に与えた影響は大きいし同志社がその媒介になったことは事実である。前記の同志社人以外にも安部磯雄、安部清蔵、剣持省吾、長坂繁次郎、河本乙五郎、坂本義夫、坂本鶴らの先輩の名を忘れてはならない。

後継者たち

安部磯雄の名は近世日本社会運動史上に輝

く同志社人で、はじめ岡山教会牧師として来任し（明治二十年—三十年）、その間四年来に留学していたが、彼の感化影響は今日の人物では想像も出来ぬほど県下あまねく広く行き渡っているし、当時の県下の有力な指導者達が集团的に受洗し改信しているし、信仰の実践を強く指導していたことは続々と彼のもとに続くものを起こした事実で明白である。石井十次に強い信仰を与え孤児の父としてあらゆる苦難に耐え得きした秘密を安部氏は与えている。彼は岡山を去り同志社の教壇に立ち、やがて早稲田大学に招聘された。河本乙五郎も初期同志社が育てた偉才の一人

で、当地の素封家に生れてよく岡山孤児院、岡山博愛会を助け、民間社会事業家として明治、大正年間本県随一の信頼された信徒であり、校友であった。とくに部落解放運動には卒先挺身し、未解決部落より二人の牧師、一人の社会運動家を育てている。最近東京、大阪教区辺りでこの問題で騒いでいるが岡山は六十年前すでに解決済みであることもこの地の同志社人の誇りである。中国民報（現山陽新聞）社長であり、衆議院議員だった坂本義夫とその名夫人鶴の矯風、廓正、禁酒、婦人参政権獲得運動における活動は本県下だけでなく、広く全国に対しても功労があった。また同志社カプルの最良の模範として県民から敬慕されていた。

過去を語って、今日を誇れないのが残念であるが、時代が変わったので最早、安部磯雄や山室軍平、留岡幸助は出ない。母校同志社も京阪神の子弟が大部分だし、岡山辺りのはなかなか入学させてくれない。よし入学出来ても卒業後岡山に帰って岡山の良心になろうと決心する若い者はいたって少なく、卒業後大阪や東京の檜舞台に飛出して就職する。そして帰岡しない。これでもよいのだろうか、同志社はどんな教育しているのだろうか、年々歳々学生数は増加し、建物は壮麗になって行くが、なお、一つを欠いているのではないかと憂へるのは私一人だけだろうか。

（昭八・大神卒・岡山博愛教会会長）